



Brush up Program
for professional

文部科学省 令和4年度「職業実践力育成プログラム」(BP) 認定課程

「IR(Institutional Research)担当者向け実践プログラム」の概要について

近年、日本における高等教育関連機関には、データやエビデンスに基づいた意思決定が求められています。この意思決定をサポートするため、学内外データを効率的に収集・分析し、意思決定者に対して「情報提供を行う人材」を「IR(Institutional Research)担当者」と呼びます。

山形大学では、[明治大学との連携](#)および他大学において IR の実務経験を持つ教職員のご協力のもと、2020年度より「IR(Institutional Research)担当者向け実践プログラム」を開講しています。本プログラムは、学校教育法に基づく「履修証明プログラム」であり、受講生は、日米における高等教育の潮流、IR および内部質保証等に関する初歩的な知識を学び、実践的な演習等を通じて、論理的思考、データ処理・分析、レポート作成やプレゼンテーション等の「IR 担当者に必要なスキル」の基盤を体系的に涵養します。

本プログラムの履修期間は約6か月間です。オンデマンド型の講義動画とオンライン授業(週末開催、月に約1回)のみでプログラムを構成し、社会人にとって受講しやすい環境を提供しています。



(様式1)

職業実践力育成プログラム(BP)への申請について

令和4年10月3日

①学校名:	山形大学		②所在地:	山形県山形市小白川町一丁目4-12			
③課程名:	IR(Institutional Research)担当者向け実践プログラム		④正規課程/履修証明プログラム:	履修証明プログラム	⑤開設年月日:	令和2年4月1日	
⑥責任者:	法人本部教授 藤原 宏司		⑦定員:	12名	⑧期間:	6ヶ月	
⑨申請する課程の目的・概要:	「IR(Institutional Research)担当者向け実践プログラム」は、大学等において学内外のデータを収集・分析し、データに基づいた意思決定のサポートを行う「IR(Institutional Research)担当者」に必要な「5つの要素」(①高等教育機関を取り巻く文脈 ②アセスメント ③データマネジメント ④データ分析 ⑤情報提供)に関する基礎的な知識・スキルを涵養することを目的とした体系的な研修プログラムである。						
⑩10テーマへの該当	DX(AI・IoT等)	⑪履修資格:	① 学校教育法第90条に規定する大学に入学することができる者 ② 現在、大学等の高等教育関係機関に勤務し、IR関連の業務経験が2年未満もしくは、将来的にIR関連の業務に就くことを希望している者				
⑫対象とする職業の種類:	高等教育関連機関に従事する者						
⑬身に付けることのできる能力:	(身に付けられる知識、技術、技能) ・日米における高等教育の潮流、IRおよび内部質保証等に関する基礎知識			(得られる能力) ・プレゼンテーション能力、論理的思考力、データ分析能力、データ処理能力			
⑭教育課程:	「IR入門<科目>」により、IRに関する基礎的な知識を学ぶ。そして、「他大学におけるIR<科目>」を通じて、国内における様々な大学におけるIR活動を理解する。「IR応用<科目>」では、世界的に求められている「大学の質保証」に関するテーマを取り扱う。「データマネジメントと分析の基礎<科目>」では、効率的なデータ処理とデータの可視化に主眼を置き、手作業で行ってきたデータ関連作業を、フリーソフトの「R」や「Power BI」で代替する方法の基礎を修得する。「IR実践<科目>」では、データ処理、データ分析、データの可視化、プレゼンテーションを実践し、本プログラムの学習成果を確認する。本プログラムでは、「データマネジメントと分析の基礎<科目>」等において、毎月、共通データを基にした実践発表課題とグループワーク(リアルタイムのオンライン授業)がある。この活動を通して、履修者同士や講師陣との双方向、多方向的な討議を行い、発表技術を向上させる。						
⑮修了要件(修了授業時数等):	60時間分の授業科目の履修及び最終成果発表会の合格による修了認定						
⑯修了時に付与される学位・資格等:	履修証明書						
⑰総授業時数:	60	時間	⑱要件該当授業時数:	60時間	該当要件	⑲要件該当授業時数/総授業時数:	100%
⑳成績評価の方法:	各科目の講義後に課せられる提出課題、リアルタイム授業への出席状況、リアルタイム授業におけるプレゼンテーション、「IR実践<科目>」における最終成果発表会の内容を総合的に審査して成績評価を行う。						
㉑自己点検・評価の方法:	学校教育法第109条第1項に定める点検評価を実施する。每期、プログラム修了生に対して「対面インタビュー(約60分/1人)」を行い、本プログラムの改善点等を聴取する。本プログラムの講師陣および「山形大学IR担当者向け実践プログラム運営委員会」において、本プログラムの成果の検証や評価を行い、検証結果をホームページ上で公表する。						

②②修了者の状況に係る効果検証の方法:	本プログラム修了2年後を目処に「対面インタビュー」を実施して、「本プログラムで学んだ内容」の活用状況を確認する。その結果を、次期以降の教育内容編成に活かす。また、本プログラムでは、修了生を対象としたメーリングリストを運営しており、修了生の「現時点」における「ニーズ」の把握を随時行っている。
②③企業等の意見を取り入れる仕組み:	<p>(教育課程の編成)</p> <p>本プログラムの講師・アドバイザーを担当する学外有識者の意見を「山形大学IR担当者向け実践プログラム運営委員会」の審議に反映することで、教育課程の編成に学外者の意見を取り入れている。なお、本プログラムは、本学と明治大学との包括協定に基づく活動であり、明治大学からのプログラム・アドバイザーの意見を教育課程の編成に反映している。</p> <p>(自己点検・評価)</p> <p>本プログラムの講師・アドバイザーを担当する学外有識者から各期終了後に意見聴取を行い、「山形大学IR担当者向け実践プログラム運営委員会」における本プログラムの成果の検証や評価に反映している。</p>
②④社会人が受講しやすい工夫:	プログラムが、オンデマンド教材(講義動画)と週末(土日)に開かれるオンライン授業(双方向・リアルタイム)のみで構成されているため、受講生のペースで学ぶことができる。
②⑤ホームページ:	(URL) https://ir.yamagata-u.ac.jp/activity/program/

(様式2)

授業科目の概要について

学校名:	山形大学
課程名:	IR(Institutional Research) 担当者向け実践プログラム

要件該当授業時数:	60時間
要件該当授業時数/総授業時数:	100%

分類	科目名	配当年次	授業時数	企業等	双方向	実務家	実地	担当教員・実務家名	教員・実務家の所属
必修	IR入門		5/5		○	○		藤原宏司	山形大学法人本部 (実務家教員)
必修	IR応用		2/2		○	○		浅野 茂	山形大学法人本部 (実務家教員)
必修	IR応用		5/5		○	○		山本幸一	明治大学研究推進部 (実務家教員)
必修	他大学におけるIR		1/1		○	○		田中秀典	宮崎大学IR推進センター (実務家教員)
必修	他大学におけるIR		1/1		○	○		岡部康成	帯広畜産大学大学情報 分析室(実務家教員)
必修	他大学におけるIR		1/1		○	○		山本 鋳	九州工業大学IR室 (実務家教員)
必修	他大学におけるIR		1/1		○	○		北原香織	鶴見大学総合企画部 (実務家教員)
必修	他大学におけるIR		1/1		○	○		荒木俊博	淑徳大学大学改革室 (実務家教員)
必修	データマネジメントと分析の基礎		30/30		○	○		藤原宏司	山形大学法人本部 (実務家教員)
必修	データマネジメントと分析の基礎		1/1		○	○		山本幸一	明治大学研究推進部 (実務家教員)
必修	データマネジメントと分析の基礎		2/2		○	○		田中秀典	宮崎大学IR推進センター (実務家教員)
必修	データマネジメントと分析の基礎		2/2		○	○		関 泉	東北文化学園大学IR室 (実務家教員)
必修	IR実践		8/8		○	○		藤原宏司	山形大学法人本部 (実務家教員)
			/						
			/						
			/						
			/						
			/						
			/						
合計:	5科目					60			時間

* 申請する課程で受講可能な全ての科目について記入してください。

* 「企業等」、「双方向」、「実務家」、「実地」の欄に○を付けた科目については、要件に該当することを明記したシラバスを添付してください。